Su-utai & Shimai 2019 Spring, Kyoto Kanze Nohplay Theater.

春の素謡と仕舞の会

すうたい しまい

言葉の響きの美しさ――。

素謡 能の台本を謡い語る

仕舞 能の一部を紋付袴姿で舞う

Tamura
田村（たむら）
味方 玄

Mitsuyama
三山（みつやま）
青木 道喜

Kagekiyo
景清（かげきよ）
梅若 実

Ama
海士（あま）
越賀 隆之

平成31年
3月10日(日)
午前11時 開演
（10時30分開場）

場 所

京都観世会館
京都市左京区岡崎円勝寺町44

入場料

■一般前売	■一般当日	■学 生
4,500円	5,500円	2,500円

全席自由席

チケットのお申込みは、お電話またはホームページから受付承ります。

お問合わせ先 | 京都観世会館 TEL.075-771-6114 京都市左京区岡崎円勝寺町44 http://www.kyoto-kanze.jp

春の素謡と仕舞の会

平成三十一年三月十日(日)
午前十一時開演(十時三十分開場)

田村

味方　玄　林　宗一郎

（地謡）谷　弘之助　河村浩太郎　河村　和晃　宮本　茂樹　橋本　光史　味方　玄　杉浦　豊彦　林　宗一郎

（仕舞）白楽天　放下僧（小歌）　蟬丸　昭君　河村　和重　浅井　通昭　鷲尾世志子　浦田　保親　浦田　親良　橋本　礒道　橋本　雅夫　牧野　和夫

三山

ツレ　味方　團　青木　道喜　河村　晴道

（地謡）樹下　千慧　梅田　嘉宏　橋本　忠樹　吉浪　壽晃　味方　團　青木　道喜　井上　裕久　河村　晴道

（仕舞）難波　屋島　采女（キリ）　隅田川　鞍馬天狗　大江　広祐　吉田　潔司　橋本擴三郎　大江又三郎　河村浩太郎　吉田　篤史　井上　裕久　河村　博重

（一時三十分頃）

景清

ツレ　浦部　幸裕　トモ　田茂井廣道　梅若　実　片山九郎右衛門

（地謡）浦部　幸裕　田茂井廣道　河村　和貴　大江　信行　分林　道治　梅若　実　片山九郎右衛門　浦田　保親

休憩　二十分

海士

子方　深野　和奏　越賀　隆之　片山　伸吾

（地謡）深野　和奏　浦田　親良　大江　泰正　深野　貴彦　松野　浩行　越賀　隆之　小野　朗　浦田　保浩　片山　伸吾

（仕舞）邯鄲（アト）　松井　美樹　大江　広祐　深野新次郎　梅田　嘉宏　河村　和晃　古橋　正邦　武田　邦弘　河村　晴久

（地謡）河村　和晃　古橋　正邦　武田　邦弘　河村　晴久

休憩　二十分

附祝言

（終了予定　四時頃）

主催　公益社団法人　京都観世会

※時間はおよその目安です。

素謡とは

能の台本（謡本）を、舞台上で謡う演奏形式です。謡うこと・語ることで情景や心情を表現します。能には「源氏物語」や「平家物語」などの古典を題材にした名作が多く伝わっており、詞（詞章）の美しさは高い評価を得ています。素謡は、その「謡うこと・語ること」のみのシンプルな表現の面白さから、大正の頃より大変な流行となりました。

また、京都には歴史的に「京観世」とよばれる「素謡」の文化があります。江戸初期寛文の時代、服部宗巴（九世観世大夫黒雪の弟、服部栖元の息、のちに福王盛親）が、西陣にあったといわれる観世屋敷で謡の教授をしたのが始まりです。以後、京都では能だけでなく、人々が謡だけをたしなむ「素謡」というジャンルが好まれ、連綿と受け継がれてきました。戦前は、京の辻々で謡の声がよく聞かれたようです。情緒豊かな「素謡」をライブでじっくりと。聴いて。みてください。

仕舞とは

能の一部（見せどころ）を、紋付袴姿で、謡にあわせて舞う演奏形式です。ほとんどの曲は扇を持ちますが、演目によっては長刀や杖などを持つものもあります。舞い手の骨格が見えやすいので、「能のデッサン」と評され、演者の個性と技を楽しめます。数分の演技で能の醍醐味が味わえるのが仕舞です。

田村　あらすじ

春、旅の僧が清水寺で満開の桜を眺めていると童子が現われ箒で木蔭を掃き清めます。僧が清水寺の来歴を尋ねると、大同二年坂上田村麻呂の御願により創建された寺であると語り、都の名所を教えます。南に清閑寺、その向こうは今熊野、北には鷲の尾の寺―、と語るうち音羽山から月が出て桜花に映えます。花の香と月の光、正に「春宵一刻値千金」である、と語りつつ童子は田村堂に消えます。僧が桜の下で経を読んでいると田村麻呂の霊が現われます。安邊の松原で数千騎の敵と戦った折、心中に仏力神力の加護を祈願すると、千手観音が現れ大悲の弓で千の矢を放ち、敵は悉く滅びたと語り、観世音の力を讃えてます。前半の春宵の美しい描写と後半の勇壮な戦の描写の対比も面白く聴きどころです。

三山　あらすじ

京都大原の良忍上人は融通念仏をひろめていましたが、このたびは大和の国に赴き耳成山のふもとにやって来て、所の者からこの耳成山と香久山、畝傍山を三山と呼ぶことを聞きます。そこへ里の女が現れ、香久山に住む膳手公成という男が、畝傍山の桜子という女と耳成山の桂子という女のもとに通ったため二人の女が争ったが、男の心が畝傍山の桜子に傾いたため、耳成山の桂子は池水に身を投げて果てたことを物語ります。夜もすがら、池のほとりで上人が回向をしていると、桜子の亡霊が狂おしく現れ、「因果の花につき祟る嵐を取り退けてください」と懺悔し、続いて桂子の亡霊が桜子を嫉妬し怨みを述べますが、回向を受け「因果の報いはこれまで」と、その心も晴れ、暁の飛鳥川に夢は流れ、物語は終わります。大和三山の昔物語を存分に楽しんでください。

景清　あらすじ

保元の春を誇った平家一門も、時利あらず、義経勢は強く、ついに壇の浦で壊滅し、一門波に沈み、あるいは源氏に捕れるが、悪七兵衛景清はいずこともなく姿を消した―。「景清」は、平家諸本が語るこの物語の後日譚です。―源家一統の世は見たくないと、みずから両眼を抉った景清には熱田の遊女との間に一人の娘がいました。彼女は父恋しさに、日向のかたほとりまで父をたずねてやって来ます。盲目の景清は今、人々に日向の勾当と呼ばれる琵琶法師となり、村人の憐れみで暮らしていることが恥ずかしく、娘に会うことができません。しかし里人の仲立ちで娘と再会し、娘に請われ屋島源平の合戦での鎬引きを語ります。鎬引きの戦語りは勇しく、それに続く娘との別れは悲哀に満ちて謡われます。

海士　あらすじ

藤原不比等の世継ぎ房前の大臣は、母親が讃州志度の浦の房前で亡くなったと聞き、追善のため志度の浦までやってきます。そこへ一人の海士が現れ、唐の高宗の妃となった不比等の妹が興福寺へ三種の宝を送ったところ、その中の面向不背の明珠がこの沖で龍神に奪われた物語を語り始めます。不比等は身をやつしてこの浦に下り、海士少女と契り一子をもうけ、明珠を奪い返すことが出来たらこの子を世継ぎにすると海士に約束し、海士は命懸けで海に入り、明珠を奪い返したというのです。さらに自分が海士の霊であることを名乗り、回向を乞いながら波間に消えます。房前が回向をしていると、海士が龍女となって現れ、法華経の力で成仏できたことを喜びます。命がけで海に入り我が子のために明珠を奪い返す様子を語る場面は鬼気迫るものがあり、聴く人を魅了します。

春の素謡と仕舞の会

日時　平成31年 3月10日(日) 午前11時開演(10時30分開場)

場所　京都観世会館　京都市左京区岡崎円勝寺町44

入場料　一般前売 4,500円　一般当日 5,500円　学生 2,500円

【お問い合わせ】
TEL.075-771-6114

■web予約も可能です。
http://www.kyoto-kanze.jp

※お車の方は、会館東隣りの駐車場、または岡崎公園市営駐車場をご利用ください。
※見所内での写真撮影・録音・録画はご遠慮ください。
※携帯電話の着信音・時計のアラーム音が鳴らないよう、あらかじめ電源をお切りください。
※都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。

【交通アクセス】

京都駅から
- 地下鉄烏丸線「国際会館ゆき」乗車「烏丸御池駅」にて地下鉄東西線「六地蔵ゆき」「浜大津ゆき」に乗り換え「東山駅」下車出口1より北へ徒歩約7分
- 京都駅前バスのりばD1より市バス100系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車（所要時間約45分）

四条河原町から
- バスのりばGより市バス46系統「東山仁王門」下車（所要時間約20分）

京阪三条駅から
- 市バス5番系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
地下鉄東西線「東山駅」下車